

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790100061		
法人名	医療法人 城南会		
事業所名	グループホームがじまる荘		
所在地	那覇市松川3丁目23番39-1号		
自己評価作成日	平成28年8月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigvosyoCd=4790100061-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェンツ		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成28年9月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の医療機関が隣接しているため、入居者の身体面・精神面などの変化が見られた際、早めに対応してくれるので、入居者・ご家族はじめ職員も安心できる。
ボランティアが毎週、室内清掃を行ってくれ、職員も月に一度地域清掃活動へ参加を行い地域貢献に努めている。夏の恒例行事として、地域の住民やご家族と「がじまる荘交流会」を開催している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は「利用者と共に地域に向かいに行きたい」との思いで、今年は、通り会の清掃活動に利用者も一緒に参加している。事業所の行事(がじまる荘交流会)を、公民館で行い地域の高校生にボランティアを依頼し、事業所や利用者の理解に繋げている。家族は行事等に参加するだけでなく、参画して携わり、良い関係を築いている。毎週定期的室内清掃、不定期の夕方のボランティアの継続は利用者との交流や職員の業務軽減となっている。母体の医療機関が隣接され、連携して健康管理を行い、家族、職員も安心できる体制である。食事も安易にミキサー食などにせずソフト食で咀嚼を残す工夫や食事量を増やす工夫に取り組んでいる。職員が学びたい事や管理者からの課題を、学習して月1回の勉強会で担当者は学んだ事を発表することで質の向上に繋げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

確定日:平成 年 月 日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りや月1の全体ミーティングの中で、理念に基づき入居者の問題や課題、ケアの方法など話し合い実践している。	理念は開設時に作成している。日々の生活が業務優先になっている時、ミーティング等で理念を振り返り、職員と意見交換、確認している。利用者の心身機能の維持、安心、安全な生活が送れるよう支援に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回の地域清掃活動への参加やボランティアが毎週、室内清掃活動を行ってくれている。毎年恒例の「がじまる荘交流会」を開催し、地域の公民館サークルや高校生などと交流を図っている。	地域清掃活動に今年から利用者も一緒に参加し、地域の祭りには職員がテント張りで協力している。ボランティアの方の活動が継続して行われている。公民館や高校生の力を借りて、「がじまる荘交流会」を開催し、地域、家族等交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアに認知症の説明を行い、理解してもらえるよう努めている。同法人の認知症カフェへ「認知症サポーター養成講座」開催や手伝いを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や施設の状況報告を行い、ご家族やボランティアと意見交換やアドバイスを受け、サービスの向上に取り組んでいる。	運営推進会議は、年6回定期的に開催され、事業所の実情等を報告している。「ケアの統一、気づきが足りない」等の家族の声や「医療併設の「デイサービス利用者の活動等について」の意見交換、アドバイスを受け、取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホーム連絡会へ参加を行い、運営推進会議で確認し必要時、直接市町村へ確認をしている。	推進会議やグループホーム連絡会で意見交換したり、窓口を訪問して連携している。管理者は認知症カフェに協力していて、地域包括支援センターから「事業所で認知症カフェを開催して外から訪問者を増やしたら？」等の提案もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに努めているが、やむを得ずベッド柵を使用する際は、ご家族と話し合い承諾を得ている。拘束解消について、職員・ご家族と話し合い再検討を行っている。	身体拘束しないケアに取り組み、昨年、ベッド柵をしていた利用者が退所、記録等の整理が滞っている。拘束についての勉強会を行い、言葉による行動抑制が聞かれた時は申し送り等で事例を挙げて注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の勉強会を開催し、虐待防止についてのマニュアルを備え、職員間で話し合い注意している。		

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護・後見人についての研修へ参加し、権利擁護の資料を備え、職員には情報を提供し理解するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族・入居者へ時間をかけ説明を行い、契約前に入居者を日中体験を繰り返し、不安にならないようサービスを行い、ヒ門や不満を聴き納得してから契約するよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族・入居者が、管理者以外に、意見や苦情が言いやすいよう、入居者担当職員を設け、面会時など直接、意見等を聞き改善が必要な事柄については、職員間で話し合いを行い改善できるように努めている。また、玄関に意見箱を設置している。	利用者からは日々の生活の中で聞く機会とし「家が分からなくなっている」との不安な声に、個別に話を聞いたり、家の近くまで出かけている。家族からは家族会やアンケートや面会時に聞く機会とし、「行事等で家族も役割があると良い」のアンケートに家族も行事等を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1の全体ミーティングや申し送り時間に、法人全体の業務・運営報告や入居者のケアや提案等があった際は、話し合いを行っている。	職員の意見や要望は、日々の業務の中やミーティング等で聞いている。利用者の状況変化等で朝のケアや見守りの為、出勤時間の変更や掃除等の業務改善を行い、改善後も2週間の実施期間を設定し、職員間で話し合い調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすいようミーティング等で、意見を聞き業務改善や業務時間の変更を行っている。また、個人的に意見があれば個人面談を行い、改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会や法人内外の研修への参加院内事例報告会への演題提出などを行い、スキルアップへ努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	那覇市や沖縄県グループホーム連絡会へ参加し、他事業所の情報を得たり、定例会・勉強会・講演会などに参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や入居者、ケアマネなど関係者から情報を得ながら、カンファレンスを行い、事前に体験してもらい、馴染んで頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等の不安や要望等に時間をかけ耳を傾けながら、信頼関係を築くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に、ご家族・入居者から思いや要望等の確認を行い、職員間で話し合い希望のサービス提供が行えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症の勉強会を開催し、正しく理解し「人として尊厳をもって」接するように努めている。ケアを行う際、入居者の意思確認を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の精神状態や健康状態の変化等を、ご家族や関係者へ報告し協力・連携して支援するように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室には、馴染みの持ち物を導入し、ご家族の協力のもと自宅や美容室への外出、友人や同僚などの面会が途切れないよう支援している。	アセスメントや家族、本人からの情報で把握したり、知人や同僚の来訪時に聞いて把握に努めている。家族の協力で馴染みの美容室を行き続けている利用者や週1回自宅まで外出、お盆、正月に自宅に帰る利用者と人や場との関係が継続できるよう働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食移動とリビングでの座席配置など、常に意識し利用者が孤立したり、入居者同士のトラブルが起きないように気配りしている。職員が、仲介し穏やかな雰囲気を作るよう努めている。		

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係が継続できるよう他施設に面会に行くなど努めている。また、運営推進会議への参加の呼びかけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者からの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めているが、困難な場合があってもご家族や関係者からの情報や本人の表情や行動から思いをくみ取り、希望や意向に沿えるよう努めている。	利用者の半分の方が表出可能で、日々の生活の中で直に聞いたり、表出が困難な場合は、本人の性格や表情、体調も見ながら把握に努めている。「奥さんに会いたい」の声で面会にでかけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者からの情報や本人からの情報・日々の関わりの中から理解するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康チェックや申し送り等で、職員同士・他職種と意見交換を行い、入居者の現状・変化・体調を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今年度より、ケアカンファレンスを月1開催し、必要に応じてモニタリングを行うよう努力している。	担当者会議は、本人、家族も参加して開催されモニタリング、介護計画の見直しも行われているが、現状に即した個別の介護計画とはなっていない。今年から常勤の介護支援専門員が兼務で配属され、計画の見直し、新たな介護計画作成中である。	必要な関係者と話し合い、一人ひとりの現状に即した介護計画に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェックや記録、申し送り等で職員間の情報共有を行い、日々の介護支援・介護計画書の見直しに活かせるよう努力している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者やご家族の状況、要望に応じて可能な限り柔軟に対応・支援するよう努めている。		

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全面に考慮し、買い物や外食、野外活動、地域清掃活動へ積極的に参加するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が同法人で、医療との連携が密にとれ、入居前からのかかりつけ病院へは、基本のご家族で対応し、受診後の報告は口頭やメモをもらい、薬の変更等は、申し送りや記録し職員同士の情報共有に努めている。	ほとんどの利用者が同法人の病院がかかりつけ医で入居前のかかりつけ医や他科受診は家族対応で受診後、家族より報告を受け職員間で情報共有している。必要時に訪問歯科に相談や指導を受け口腔マッサージをしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の精神状態や健康状態の変化等を、ご家族や関係者へ報告し協力・連携して支援するように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の体調の変化をできるだけ早期に発見しご家族、主治医と相談をしながら、入院時の情報交換をおこなっている。退院時にむけて担当者会議を開き支援準備もやっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の兆しが見られた場合、なるべく早い時期からご家族に終末期のあり方について主治医に説明してもらい、本人・家族の意向を確認し、事業所として出来ることに対して、了解を得ている。	利用開始時に利用者や家族に、医療的行為が必要となる場合の対応を説明し、状況変化に応じ主治医から説明を行っている。現在の利用者は看取りを希望しており、看取りについての心構えや研修に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを備え、主治医・ご家族・救急への連絡体制をとっている。今後、初期対応や救急手当の勉強会開催予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害や地震等のマニュアルを備え、昼夜を想定した消防訓練を年2回実施。	昼夜想定消防訓練を年2回実施、ボランティアも参加し、隣に住む大家の協力体制も整っている。川の氾濫に備えマニュアルを整備し、水位が上がった場合は金城ダムへ電話連絡、ダムの職員がパトロールに来ることになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の人格を尊重し、ケアを行う際も入居者の意見を確認し、支援するよう努めている。(意見の確認が困難な場合、表情などからくみ取るように努めている。)	利用者に対して、無理強いないような声掛けを基本とし、本人のやりたいこと、好きなことができるよう支援している。利用者のこれまでの生活してきたことを大切に、できるだけ利用者ができるまで待つように心掛け、職員で共有して同じ対応ができるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の意思を確認し支援するよう努め、意思確認が困難な場合があっても、表情や仕草等から意思に沿えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の自己決定を尊重し、健康状態・本人のペースを大切にしながら過ごしてもらい、家事手伝いなどを取り入れ、充実した日常になるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者が着たい物や身だしなみができるよう支援に努めている。美容に関しては、ご家族と相談し訪問美容か、今まで通っていた美容室へご家族と外出している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや後片付けを声掛けにて、無理強くない行ってもらうように努めている。時には、外食なども取り入れている。(入居者に合わせ、盛り付け方や食事形態・ソフト食などの提供を行っている。)	利用者は買い物や、下ごしらえ、食器洗いに参加している。食事量が少なかった利用者の毎食の写真と量をノートに記録、分析し、盛り付けの工夫により完食することも増えた。ミキサー食は出さないとの信念から、ソフト食で硬さを残して咀嚼の工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎回チェックし、個々の食事形態に配慮し、月1体重測定を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、口腔内や義歯の状態を把握し必要時、ご家族に連絡し歯科受診や訪問歯科にてアドバイスを受け対応を行っている。		

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンの把握に努め、排泄の失敗を減らすよう時間誘導を行い、出来る行為は声掛けを行いながら、自立支援に努めている。	日中は布ハンフで排泄パターンに合わせ、排泄支援している。夜間はポータブル利用者が1人、他の方は弱酸性の尿取りパットを使用し、皮膚疾患、眠剤の利用者もなくなり安眠につながっている。年に一度、おむつの勉強会を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排尿・排便状況・水分や食事を観察し、運動にも配慮している。必要に応じて、医師・看護師に相談し、薬の調整を行うように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に、1日越しの入浴だが入居者やご家族からの要望等には、柔軟に対応できるよう努め、出来る行為は、声掛けにて促し自立支援に努めている。	入浴日は決まっているが、利用者の入りたい時に対応している。脱衣所には個人の選んだ着替え、バスタオルを前もって準備し、ゆったり入浴できる工夫がされている。できることは自分でできるように見守り支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	前日の睡眠状態を把握し、本人の意思のもと日中の活動や生活リズムを崩さないよう支援を行い、良眠できる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の変更や臨時薬があった際、申し送りノートに記入し薬の内容説明書を個人カルテにファイリングしている。(誤薬などないよう、日付・名前の確認を必ず行っている。)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の意思確認を行い、家事手伝い・野外活動・地域清掃活動など行い、楽しみやメリハリのある生活環境作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	野外活動以外に、重度デイケアを利用し日常的に外に出る機会を作るように努め、ご家族協力のもと外出の機会を作ってもらっている。	医療併設のデイケアに歩いて出かける方や、家族とドライブや外食に出かける利用者もいる。食材が足りない時、その都度近所のスーパーや八百屋へ買い物に出かけ、利用者にも品定めしてもらっている。職員の数にもよるが、利用者が思い立った時、すぐに外出できるよう支援している。	

沖縄県(グループホーム がじまる荘)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者が金銭を使う時には、ご家族・権利擁護の理解と協力のもと支援している。(年に1度、初詣の際には、くじ引きやお守りを自ら購入してもらっている。)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	対象入居者がいないが、ご家族から電話や手紙があった際には、職員が傍で介入し支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、すべてバリアフリーとなっており入居者の状態と時間に応じて、照明や音量に配慮し心地よく過ごせる環境作りに努めている。	食堂と分かれているリビングには9人全員がゆったりと腰かけられるソファを配置し、庭や樹木が窓から見え自然を感じられ、ピアノを弾いたり、テレビを見たり洗濯物をたたむなど、思い思いのことをしている。居室から、食堂、居間との移動で生活リハビリにつながっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の意思に応じて、思い思い過ごせる場所の工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具や日用品を持ち込み、入居者やご家族の希望に沿って、居心地よく過ごせる工夫に努めている。	居室内はベットだけでなく床や畳に布団を敷いて、在宅での生活様式に合わせている。使い慣れた手作りの机や収納棚が持ち込まれ、家族の写真や、習字の作品を飾ったり、個性ある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る限り、安全に自立した生活が出来るように、手すりの配置や家具の配置の工夫に努めている。		